

【様式 02】 高大連携公開講座シラバス

* 科目 No.	06206
----------	-------

1. 開設大学	県立広島大学 生命環境学部	開講場所 (キャンパス・施設)	広島キャンパス
2. 科目名	海域環境の保全に関する研究紹介		
	学問分野	番 号	43 名 称 環境
3. 担当教員	原田 浩幸 環境科学科 教授 内藤佳奈子 環境科学科 准教授		
4. 開講期間 (曜日) 開講時間	平成 28 年 7 月 23 日 (土) 10 時 40 分 ~11 時 30 分 (内藤) 11 時 40 分~12 時 30 分 (原田)		
5. 募集定員	40 人		
6. 科目内容・ 授業計画	<p>現在、生きものが生息する水際の環境が極めて深刻な状態に至っており、日本の沿岸海域から多くの生物が姿を消しつつあります。我々が日常食しているウナギやアサリなども全国的に減少しており、最近では海と親しむ文化としての潮干狩りも消えゆくとしていいます。このような状況のなかで、海域環境の保全と再生をめざした取り組みが各地で行われています。本講座では、瀬戸内海や有明海などの海域を対象に本学環境科学科教員が行った研究を紹介します。</p> <p>(10 : 40~11 : 30)  <b>「瀬戸内海における沿岸再生への取り組み」内藤佳奈子</b>          海洋における一次生産の担い手は、植物プランクトンと呼ばれる微細藻類です。微細藻類は食物連鎖を通じて、海洋生態系における魚介類などの高次生物の生産を支える重要な役割を果たしています。微細藻類の増殖には多くの元素を必要とします。前半では、広島湾や播磨灘など瀬戸内海における沿岸再生への取り組みについて、微細藻類と微量元素との関係を中心に講義します。</p> <p>(11 : 40~12 : 30)  <b>「有明海における沿岸再生への取り組み」原田浩幸</b>          近年、有明海では大規模な赤潮や貧酸素水塊などの発生によって、魚介類の激減やノリの色落ちなど漁業被害も頻発化しており、瀕死の海へと極めて深刻な状況に至っています。有明海では流入に比べて底質の有機物増加、すなわち一次生産が多くなっている状況が見られています。後半では、有明海における底質の付着生物の影響を生物化学的に検討した内容を中心に講義します。</p>		
7. 受講料	なし		
8. 別途負担費用	(テキスト代・実習料等) 特になし		
9. 開講条件※1 あり・ない	① 最少開講人数 ( 6 人) 定員超過の不許可は選考により決定 ----- ② 不許可・不開講通知日 6 月末		
10. その他特記事項	受講者についての制限事項、事前に予習しておく資料・文献など特記すべきこと		
11. 開設大学への 交通手段	http://www.enica.jp/ から開設大学のホームページにジャンプして確認してください。		

※1 申込時点で原則、受講できます。ただし、開講条件で不許可・不開講があった場合は受講申込者へ通知します。